

発信力を重視した英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導と評価について

—大学における実践報告—

泉 恵美子（京都教育大学）

1 はじめに

大学では、グローバル社会で貢献・活躍できる地球市民を育成するため、コミュニケーション能力育成を目指した指導と評価を行っている。時事問題について、読んだり、聞いたりしたこと、音読やシャドーイングなどで言語を内在化させ、要約や討論、発表を通して、使える英語の習得を目指したり、CALL 教室での e-learning による自学自習を推進したり、コミュニケーション方略の集中訓練などをしながら、発信型コミュニケーション能力の育成のための指導と評価を行っている。

(1) 高大連携について

- ・使える英語の育成、西京高校への指導助言、Can-Do リストの作成助言など
- ・大学と附属高等学校との取組：SSH(Super Science High School)で、英国の高校生との交流、共同サイエンスワークショップを企画。大学の施設、理科領域の教員の指導のもと、1 週間様々な実験や研究を行い、最後に各班で発表を行う。
- ・その他、小中高大一貫した英語教育の視点から教員養成、教員研修を実施。

(2) 英語教育、外国語活動の動向

- ・『『国際共通語』としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策』（2011 年 6 月）
- ・「グローバル人材育成推進のための初等中等教育の充実」（2013 年）
- ・自民党の日本経済再生本部の中間提言（2013 年 4 月）：英語力向上、英語を母語とする外国人教員を 3 年で倍の 1 万人に、10 年以内に全小中高校に配置
- ・教育再生実行会議の提言（2013 年 5 月）：英語を使って世界で活躍できるグローバル人材の養成を重視。小から大まで一貫した取り組みが必要。中学校の授業を英語で。TOEFL を大学入試、他
- ・文部科学省：「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」「世界と戦えるグローバルリーダーを育てる新しいタイプの高校」英語力だけでなく、幅広い教養や問題解決力も身につけた生徒の育成。
- ・諸外国の英語教育の指導目標と到達目標、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）と CEFR-J
- ・今後の英語教育の改善・充実方策について 報告（概要）～グローバル化に対応した英語教育改革の 5 つの提言～（2014 年 9 月 26 日）

(3) 『『国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策 ～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～』（H23.6.30, 外国語能力の向上に関する検討会）

- ・提言 1 生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検討する。
- ・提言 2 生徒にグローバル社会における英語の必要性について理解を促し、英語学習のモチベーション向上を図る。
- ・提言 3 ALT, ICT 等の効果的な活用を通じて生徒が英語を使う機会を増やす。
- ・提言 4 英語教員の英語力・指導力の強化や学校・地域における戦略的な英語教育改善を図る。
- ・提言 5 グローバル社会に対応した大学入試となるよう改善を図る。

2 コミュニケーション能力育成のために

(1) コミュニケーションとは

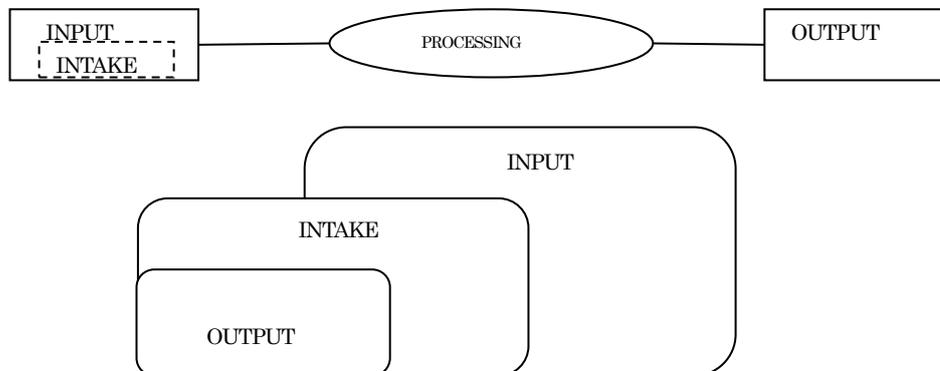
(2) コミュニケーション能力とは：知識・理解，関心・意欲・態度，表現

- ・言語能力 (linguistic competence) - 音声・単語・文法の能力
- ・談話能力 (discourse competence) - 一文以上をつなげる能力
- ・社会言語学的能力(sociolinguistic competence) - 社会的に「適切」な言語を使う能力
- ・方略的能力 (strategic competence) - 問題が起こった時処理する力

育成のための視点：

- ・CS の指導：filler, paraphrase, circumlocution, clarification requests, confirmation checks, comprehension checks, gesture, appeal for help など
- ・積極的にコミュニケーションを図る態度の育成が大切 (Willingness to communicate: WTC)
- ・自分に関わること，身近なことから地域，世界，時事問題への関心と広がり，まとまった内容，日本語との違い，文法への気づき，話したい，伝えたい，尋ねたい話題／内容を設定。最終的には自分が考えたことを言えるように。意味を作る(sense-making)。personal involvement
- ・身体，五感，情動を用いて言語を内在化させる。短期記憶から長期記憶へ。学習法と MI 理論
- ・意味があり(meaningful)，役立ち(useful)，楽しく(fun, interesting, exciting)，情報差(information gap)や発見(new, mysterious)があり，相互交流(interactive)が出来るコミュニケーション活動を設定する。
- ・相手の意図や気持ちを推測させる(guessing, inference, understanding)
- ・ペア，グループなど協働的学習を取り入れ，互いに助け合わせ，共に学ばせる *ZPD

(3) 第二言語習得理論より:インプットとインテイク，アウトプットの関係



- ・ Input processing, input flood, input-intake-output

3 大学での英語授業について

(1) 英語オーラル I，II，英語IVB における時事問題やプレゼンテーションの指導

- ・授業のテーマと到達目標：「これまでに修得した英文聴解・発話能力のさらなる強化を図るべく，多様なジャンルの英語を用いた高度で多様なトレーニングを行う。英語の実際的な運用場面においては，文脈の適切な理解に基づき，相手の英語を正確に理解することはもちろん，自分の意見を効果的に伝達することも必要である。このため，リスニングやディクテーション，また，会話や口頭発表など，多様な言語活動を行い，英語の全般的な運用力を向上させ，将来の自律的・主体的な英語運用につながる能力を身につけることを目標とする。」
- ・授業の概要：グローバルな視野を持ち，国際的に活躍するためには，英語ニュースを聞いて理解したり，時事問題について英語で話せる力が必要である。そのため，ABC 放送からのテレビニュースを聞いて，TV ニュース英語に慣れると共に，時事問題に関心を持ち，それらの話題につい

て聞いたり、話したりする能力を育成することを目的として、毎時間1 Unit ずつ進める。添付のDVD をあらかじめ視聴し、予習・復習を習慣づけ、毎回の課題、小テストにも取り組む。最終的にはポスタープレゼンテーションによるパフォーマンス評価を行う。

- ・テキスト：ABC World News 16 / Shigeru Yamane, Kathleen Yamane：金星堂，2014年
- ・成績評価と基準：授業活動・平常点2割，小テスト・課題提出2割，試験6割（筆記3割，オーラル3割）の総合評価。
- ・洋楽によるリスニング，スピーチ，ディスカッション，ディベート，プレゼンテーションを行う。
- ・授業の流れ：

- ① 復習の小テスト：内容の真偽，語彙，ディクテーション，英作文，ボーナス問題
- ② 数名の speech or presentation と Q&A（時事問題 or 専門領域）他己評価
- ③ 本時のテーマについて schema activation, Q&A
- ④ pre-watching：新語の定義確認
- ⑤ Listening, Reading の後，内容把握，Q&A
- ⑥ 音読：overlapping, shadowing, pair reading, read & look up, read, look up & say, intake reading
- ⑦ ペアで本文のオーラルサマリー
- ⑧ 本文のテーマに関する問題についてグループディスカッション，場合によっては賛成意見，反対意見をミニディベート形式で言わせる。
- ⑨ 課題として要約とディスカッションの問題を解いてくる。

(2) CALL 教室での ATR CALL BRIX を用いた自主学习

- ・『小学校英語』の科目受講生（小学校教員免許状取得希望者必修科目）対象
- ・CALL 教室を昼休み，放課後開放，自主学习課題

(3) Communication Strategies 指導：ジャーナルライティングによる内省を中心とした指導

- ① Goal setting：本時のねらいを各自設定
- ② Explanation：授業で指導者が行う CS 指導についてまとめる。
- ③ Material selection：本時のタスク
- ④ Task planning：タスクの内容についてどの様に CS を使用し，タスクを遂行するかをあらかじめ考え，brainstorming する。
- ⑤ Peer Reflection & Feedback (think-aloud protocol)：タスク実施後，ペアや個人で振り返り，気がついたことを記入。
- ⑥ Evaluation (Assessment Task)：評価用タスクについて各自が自己評価
- ⑦ Peer Reflection & Evaluation：互いに話し合い，気のついた点を評価しあう。
- ⑧ Transcription：録音した評価用タスクの会話のピンポイントの書き起こし
- ⑨ Self Reflection & Journal Writing：書き起こしをもとに内省を深め，気づいたことを記入
*メタ認知能力を高める。
- ⑩ Teacher's Feedback：指導者がコメント

日程	指導 CS の種類
Week 1	発話準備のための時間の確保，ためらい，つなぎ語 (filler)
Week 2	聞き返し：繰り返しの要求 (ask for repetition), 身振り (Mime)
Week 3	確認(confirmation checks), 明確化(clarification requests)

	相手の理解の確認 (comprehension checks)
Week 4	助けを求める(Appeal for help), 言い換え (Paraphrase, Circumlocution) Debate の留意点
Week 5	話題転換(Topic shift, Turn-taking), あいづち (Response, Backchannel) 会話方略
Week 6	自己修正(self-repair) 会話の調整 (Interruption, Conversation strategies) Discussion の賛成・反対, 態度の表明
Week 7	Presentation の留意点
Week 8	CS の統合的使用
Week 9	CS の練習
Week 10	CS のまとめと評価

4 発信力育成のために

①必要不可欠なもの：基礎的な英語力 (知識と技能) : 発音・語彙・文型／文法・4 技能+表現能力

+発信したい内容と情報+感情・情動・思い+コミュニケーションを図ろうとする態度

②4 技能の統合的な指導 : input から intake, そして output へ

③書く／話すの指導と評価の工夫と充実

④どのような力が求められているか, それらの力を訓練し, 習得, 定着, 活用させるための方法は?

技能	求められる力	学習法
語彙	<ul style="list-style-type: none"> 3000 語レベル以上の語彙の習得 英語での概念やイメージ・意味の理解 語彙力の増強 	<ul style="list-style-type: none"> 英英辞典を活用し, 重要語彙を定義づける(defining) 英語で説明をしたり, 活用する 意味や概念のまとまりで関連付けて覚える
発音	<ul style="list-style-type: none"> 正しく発音できる。アクセントの位置 segmental と suprasegmental (抑揚など) 	<ul style="list-style-type: none"> 発音記号や発音方法を習得 文字と音の迅速な符号化と意味アクセス
文型・文法	<ul style="list-style-type: none"> 文型や構文の理解と活用, 文法力の増強 	<ul style="list-style-type: none"> 文型を用いて自己表現活動 focus on form(FonF), タスク活動
リスニング	<ul style="list-style-type: none"> 自然な速度のものを聞いて理解する 背景知識を活用し, 予測・推測しながら聞く 話し手の意図を理解する 資料活用: 聞きながらメモを取る 事物紹介や報告, 対話や討論などを聞いて, 情報や考えなどを理解したり, 概要や要点をとらえる 	<ul style="list-style-type: none"> まとまった量の英語を聞いて概要をつかむ 脱落, 連結, 同化など音変化の理解 音声的特徴や内容の展開などに注意 note-takingの訓練 論点や根拠などを明確に理解するとともに, 文章の構成や図表との関連などを考える 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用する←トピックに関する知識を増やす
リーディング	<ul style="list-style-type: none"> 早く正確に読む Reading skill や reading strategies 説明, 評論, 物語, 随筆などについて速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする 聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な文の言い換え (paraphrasing), 内容の要約 (summarizing) や, 内容を理解して第三者に伝える (story-retelling) やさしい英文を訳さずに多読・速読する Reading for fun, graded readers 論点や根拠などを明確にするとともに, 文章の構成や図表との関連などを考える 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用する←トピックに関する知識を増やす authentic materials を多く読む

スピーキング	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や論点を明確に話す 気持ちを込めて伝える 相手との意味交渉など 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる(談話能力) コミュニケーションへの積極的態度 困った時も話を続ける(方略的能力) 相手に応じた表現が出来る(社会言語的能力) 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチ、プレゼンテーション、ディベート他、ストラテジー(言い換え、確認など) 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるようにする まとめたことを発表する 発表を聞いて、質問したり意見を述べる 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う 流暢さと正確さを意識して話す
ライティング	<ul style="list-style-type: none"> 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめ、まとまりのある文章を書く(談話能力) 英語特有の文の組立てや様々なタイプの文章が書ける 自分の主張をはっきり述べる 相手に応じた表現が出来る(社会言語的能力) 	<ul style="list-style-type: none"> 自由英作文(creative writing) 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるようにする 主題を決め、様々な種類の文章を書く 聞いたり読んだりしたこと、既習事項や経験に基づき、情報や考えなどをまとめて書く(summary writing, dictogloss) パラグラフライティングやプロセスライティング
思考力	<ul style="list-style-type: none"> 様々な角度から総合的、批判的、論理的に考え、判断する 日本語力、教養 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野や話題に関する良いモデル文を読んだり聞いたりして、日常的に考える力を鍛える 新聞やニュースなど問題意識を高める ディベートなど4技能の統合で論理的思考力を育成
表現力 情動・感情、態度 知的好奇心	<ul style="list-style-type: none"> 感情をこめて読んだり話したりする 表情やジェスチャーなど非言語コミュニケーション能力 伝えたいとの思い 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるもの、楽しく想像力を高め、感動を味わえるものなどを読んだり聞いたりする 演じたり、歌ったり、身体と心を用いた活動を行う

- ・オーセンティックな言語バンクを作る(語彙ネットワークなど) *音読, 暗唱, 暗写の効果
- ・学習者を動かす活動を。英語は活用しないと身につかない。

読んだり、聞いたりしたもの ⇒ 自分の意見形成と人前での発表(書く、話す) ⇒ 生徒・学生同士のインタラクション(人間関係形成, コミュニケーション力育成)

- ・英語の基礎学力は選択能力と配列能力⇒ それらを育てるにはアウトプットは不可欠。実際に使ってみないと分からない。チャンクの重要性と自動化(fluency)を目指す。
- ・英語についての知識を増やすだけでなく、英語で表現されている内容に関する情報や考えを活用し、いろいろな角度から分析・考察したうえで、自分の意見などを表現できるようになることが重要。*考える力thinkingの育成: 「論理的思考力」「批判的思考力」「迅速な思考力」

5 おわりに: 言葉の意味を教え使えるようにしよう!

- ・英語力はすぐに身につけることが出来ない。中・長期的展望が必要。
- ・Language is a way of connection between souls, a means of communication.
- ・国際化と英語: 英語は自分と世界との架け橋(英語の多文化性), 特に同世代の若者との国際交流が大切 *そのためにもアウトプット重視の英語教育は極めて重要
- ・学習者の動機づけを高める授業を行う: Motivational Strategies
- ・評価の改善: パフォーマンス評価やポートフォリオ評価を取り入れる。
- ・自律した学習者(autonomous learner), 教師(autonomous teacher)の育成: 教員の意識改革: reflective practitioner を目指した授業研究 cf. teacher's belief, KASA (Freeman, 1986)

参考資料1 CEFR

A1		A2	B1
理解すること	聞くこと	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているならば、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
	読むこと	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。 簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
話すこと	やり取り	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。 通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいの状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
	表現	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るすることができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。 物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。
書くこと	書きこと	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。
B2		C1	C2
長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。たいのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。標準語の映画なら大多数は理解できる。		たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているにすぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。
筆者の姿勢や視点が表れている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。		長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の関連外の分野での専門の記事も長い技術的説明書も理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門的記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。
流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。		言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を精確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言にあわせることができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。自分を流暢に表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。表現上の困難に出会っても、周りの人がそれにほとんど気がつかないほどに修正し、うまく繕うことができる。
自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。		複雑な話題を、派生的問題にも立ち入って、詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流暢に記述や論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。
興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。		適当な長さでいくつかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。自分が重要だと思ふ点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。	明瞭な、流暢な文章を適切な文体で書くことができる。効果的な論理構成で事情を説明し、その重要点を読み手に気づかせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。

参考資料2 英検の can-do list

	読む	聞く	話す	書く
1級	社会性の高い幅広い分野の文章を理解することができる。	社会性の高い幅広い内容を理解することができる。	社会性の高い幅広い話題についてやりとりをすることができる。	社会性の高い話題についてまとまりのある文章を書くことができる。
準1級	社会性の高い分野の文章を理解することができる。	社会性の高い内容を理解することができる。	社会性の高い話題について、説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。	日常生活の話題や社会性のある話題についてまとまりのある文章を書くことができる。
2級	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。	日常生活での情報・説明を聞きとったり、まとまりのある内容を理解することができる。	日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。	日常生活での話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。
準2級	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。	日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。	日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べるることができる。	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。
3級	簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。	ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。	身近なことについて簡単なやりとりをしたり、自分のことについて述べるることができる。	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。
4級	簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。	簡単な文や指示を理解することができる。	簡単な文を使って話したり、質問をすることができる。	簡単な文やメモを書くことができる。
5級	アルファベットや符号がわかり、初歩的な語句や文を理解することができる。	初歩的な語句や定型表現を理解することができる。	初歩的な語句や定型表現を使うことができる。	アルファベット・符号や初歩的な単語を書くことができる。

2級レベル

読む	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 一般向けに書かれた説明的な文章を理解することができる。(旅行者向けのガイドブックなど) 実用的な文章 (How to もの) を理解することができる。(料理のレシピ、ガーデニングなど) 日本語の注や説明がついた英字新聞で、興味・関心のある話題に関する記事を理解することができる。(週刊 ST/Asahi Weekly など) 簡単な内容であれば、まとまった量の英文の要点を理解することができる。(講義や研修での 課題図書や資料など) 簡単なチラシやパンフレットを理解することができる。(商品の値段、セール情報など) 1つのパラグラフ (段落) において、主題文 (段落の主題を伝える文) と支持文 (主題文を支える例など) の区別をすることができる。
聞く	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 日常生活の身近な話を理解することができる。(セールの情報、地域のイベントなど) 簡単な内容であれば、英語で行われる授業や研修を理解することができる。(外国の文化や 生活の紹介など) 公共の場でのアナウンスを聞いて、重要なポイントを理解することができる。(人の呼び出しなどの 館内放送、イベントでの注意事項など) 買い物で店員からの簡単な説明を聞いて、理解することができる。(サイズ、割引、品切れなど) 相手の学校 (会社) について、簡単な紹介や説明を聞いて、理解することができる。(場所、人数、特徴など) 天気予報を聞いて、その内容を理解することができる。(晴れのち曇り、気温の高低など)
	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 日常生活の身近な状況を説明することができる。(遅刻や欠席の理由など) 印象に残った出来事について、話すことができる。(旅行、イベントなど) 自分の学校 (会社) について、簡単な紹介をすることができる。(場所、人数、特徴など) 簡単な道案内をすることができる。(例: Go straight and turn left at the next corner.) 買い物で店員に欲しいものや好みを伝えたり、簡単な質問をすることができる。(色、サイズ、値段など) 簡単な伝言をすることができる。(例: Tell Jane to call me back. / Tell John I can't go to the meeting today.)
書く	日常生活での話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 印象に残った出来事について、その内容を伝える文章を書くことができる。(学校行事、旅行など) 自分の学校 (会社) を紹介する簡単な文章を書くことができる。 住んでいる地域を紹介する簡単な文章を書くことができる。 自分が読んだ本や見た映画について、自分の感想を書くことができる。 ある程度の長さの手紙 (Eメール) を書くことができる。(ホームステイ先や友達への近況報告など)

